

中東問題・患難前携挙とユダヤの結婚・聖餐式

本日の聖書預言アップデートでは、3つの問題について、お話ししたいと思います。

1つ目は、先週私がお伝えした、第二テサロニケ2:3に関して、“霊的な立ち去り”か、“肉体的な立ち去り”なのかについてです。2つ目は、先週起こった預言的に大きな意味のある出来事についてです。3つ目は、聖餐式を通して、患難前携挙に関してです。

まず、第二テサロニケ2:3に関して。私は、アンディー・ウッズ先生と、マーク・ヒッチコック先生とお話ししたいと思っています。ヒッチコック先生とウッズ先生は、この件に関して、互いに違う立場に居られますが、私は、2人を真の聖書学者と見て、絶大な敬意を払っています。また私は、今年の10月には2つのカンファレンスで、このお二人と一緒できる特権に預かっているのです。アンディー・ウッズ先生とは、オクラホマ州で行われる Gary Stearman の Prophecy Watcher カンファレンスで、マーク・ヒッチコック先生は、ミネソタ州で行われる Jan Markell の Understanding the time カンファレンスです。どちらも10月に予定されていて、私も両方のカンファレンスの講師として、参加させていただきます。そこで、これに関しては、「お互いの意見が異なるという事で、快く同意する」ように、皆さんには真摯にお願いします。特に、私たちの YouTube チャンネルにコメントを残される、オンラインチャーチの皆さん。正直に申し上げて、ひどく下劣なだけでなく、実に不潔な中傷コメントが入るのは、本当に嘆かわしい事です。これは、神を悲しませていると私は思います。箴言6章に書かれている、神の憎むものを思い出します。

“主の憎むものが六つある。いや、主ご自身が忌みきらうものが七つある。”(箴言6:16)

その内の一つが、

“兄弟の間に争いを引き起こす者”(箴言6:19)

それに関しては、先週第二コリントを通して試練について学ぶ中で、時間をかけてお話ししました。コリントの“大使徒”が、本物の“使徒”パウロの使徒としての資格を否定し、その為、やむを得ず使徒パウロは、自分を弁護しなければなりません。そこで、もう一度皆さんには、心からお願いいたします。私は「ベレヤ人(使徒の働き)の議論」は大好きです。これによって、自分で聖書を調べ、それが神の真実であることを証明する事が出来ますから。私はそれが大好きですし、それに対して拍手を送ります。しかし、片や偽の非難、中傷、悪意の霊に満ちた下品なコメントに関しては、はっきり言って受け入れられません。どうか、低俗にならないでください。偽の非難をして、兄弟の間に争いを引き起こさないでください。

2つ目に、先週起こった、預言的に大きな意味を持つ出来事についてです。まず、トランプ大統領と、マフムード・アブバスとのホワイトハウスでの面会について。次にお伝えするのは、両大統領の発言の引用です。まずはトランプからです。

——「大統領（アッバスを指して）、あなたは、最初の和平同意に調印されましたね。両国と地域に安全と、安定と、繁栄をもたらす、この“最後”で“最も重要”な和平同意に署名したパレスチナ指導者としてあなたを支持します。そして、この同意を促進するために必要な仲裁、仲介、私はどんな事でも行います。」
「我々は、これを成立させます。イスラエルと、パレスチナの間に平和をもたらしたいのです。我々はそれを行います。その為に、必死の努力をしましょう。これまでも、長い時間が費やされました。しかし、我々は熱心に努めていきましょう。私は高い可能性でそれが出来ると思っていますし、（アッバースに向かって）あなたも、同じように感じていらっしゃるでしょう。」——

アッバースの発言の引用です。

——「大統領。我々の方策のオプション、選択肢は、平和をもたらす事。——

申し訳ないですが、皆さん理解しておかなければなりませんよ。アッバースと、彼の前のアラファトは、アメリカ合衆国に来ては、「我々は、イスラエルとの平和を願っている。」と言い、彼らは、ラマラに戻ると、アラブ語でこう言うのです。「我々にとっての平和とは、イスラエルの破滅だ。」皆さん、理解しなければなりません。モハメッドと彼の後のサラディーンという言葉、「まずは敵と和平を結んで、それから滅ぼすのだ。」これは、第一テサロニケ 5:3 です。

“人々が「平和だ。安全だ。」と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。”
（第一テサロニケ 5:3）

そしてこれが、このアッバースとトランプの会見の間中、何度も出てきたのです。

—「我々が選んだ方策は、二国を基礎として平和をもたらす事です。東エルサレムを首都とする、パレスチナ国が、**1967 年の国境に基づいて**、イスラエル国と共に“平和に安定して”、“平和に安全に”暮らす事だ。そして、『イスラム国は、“気高い宗教イスラム”とは、何の関わりもない。』と発言した後、アッバースは続けて言った。「大統領。我々にはこの働きを完成させる力があり、実現する事が出来ると思います。それは、大統領、あなたがその成功と実現を強く願ひ、あなたが、それを決意されたからです。だから、大統領、“インシャ アッラー”……

これは、アラブ語で“アッラーが望むなら”という意味です。“神”だなんて、言わないで下さいよ。「また、先生。アッラーとはアラブ語で神の事でしょ？」いいえ、違います！これは、敬称でなく名前です。そして、名前は性質を表すのです。アッラーは、月の神で、偽神です。モハメッドは偽預言者、イスラムは偽宗教です。どうか分かってください。これを知っておいてください。

—「“アッラーが望まれるなら” 私たちは『新しい機会』（キーワードです）を得て、我々が平和をもたらすのを可能にする、『新しい地平線』となる。大統領、今こそ、（よく聞いてください）イスラエルは、50年に及ぶ我々の民と、我々の土地の占領を止める時だ。占領下に生き残っているのは、唯一我々だけだ！」—

本当ですか！？これが、まさに『嘘』と言われるものです。いいですか？

—「我々は、自由と尊厳、自決の権利を得ようとしているのです。また、我々は、パレスチナがイスラエルを国と認めているように、イスラエルがパレスチナを国として認める事を望んでいるのです。」—

これは、面白いですね。パレスチナが、イスラエルを国として認めていると？冗談でしょう？

—「大統領、我々は若者や子供たちや孫を、平和文化の中で育てているのです。」—

これは『嘘』です。彼らは、平和文化の中でなんか育てていません。彼らは、「ユダヤ人は豚だ」「人間でさえない」「ユダヤ人を殺せ」と教え、育てているのです。アラブ語でそう言っている、英語字幕付きの動画があります。5歳、6歳、7歳、娘と同じ年の10歳の子どもが、アラブ語で「ユダヤ人を殺せ！」「奴らは豚だ！」「ユダヤ人の血を流せ！」と言っているのです。父親がアラブ語で子供に聞いています。「誰を殺したいんだ？」「ユダヤ人！」「どうやって殺したいんだ？」「奴らの頭を切り落としたい！」「奴らの血を流したい！」と。これが、教科書に書かれているのです。これが、学校のカリキュラムにあるのです。彼らは、これを子供に教えているのです。

アッバースは続けて言いました。

——「我々は、我々の子ども達に、安全と自由と平和をもたらそうと努めている。世界の他の国の子供たちのように、彼らも暮らせるように。イスラエルの子ども達と共に、平和に自由に安全に。大統領、今日私は、3つの一神教が反映する場所、聖地より、パレスチナ国民の希望と願望を携えてやって来ました。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、皆が共に『共存』出来るように。全ての人によって、安全と平和、平和で安全、安定、愛の環境の中で、発展させる事が出来るように。」——

子どもの頃、私は、自分はパレスチナ人だと言われて育ちました。私の父はエジプト人で、母はパレスチナ人だと。私は19歳で救われて、その後、パレスチナ人なんてものはないと知るようになりました。私は、パレスチナ人ではありません。私の母もパレスチナ人ではありません。パレスチナ人と言う名前は、ペリシテ人の訳から来ていて、ペリシテ人＝パレスチナ人です。ペリシテ人はもう存在しません。それだけでなく、ペリシテ人の身長は2m70cm、ゴリアテはペリシテ人でした。

アッバースがこれを言った後、実に驚愕ですが、トランプはそれに答えて次の発言で締めました。

——「パレスチナとイスラエルの和平交渉成立は、最も難しいとこれまでずっと聞かされてきましたが、それは間違いであると、私たちが証明できるかやってみましょう。いいですね？」——

これが水曜（5/3）で、金曜のYnet Newsの報道によると、トランプの訪問を、1967年6月の6日戦争の、第50年記念に合わせて、6月まで延期してほしいとのイスラエルの要請を、ドナルド・トランプ政

府が断ったと、西側で報道されたとのこと。アラブの新聞 Al Hayat が土曜日に報道したのは、同じ情報源より、5月22日に予定されているイスラエル訪問を、6月上旬に延期してほしいとの、イスラエルからの要請をホワイトハウスが断ったとのこと。彼らは他の事を理由に、(よく聞いてください)「そのタイミングで訪問すれば、アメリカがイスラエル側の立場であるとの偏見を与え、アメリカの立場を損なう可能性がある。」と発言。

それが何の問題ですか？私たちは、イスラエルの味方では無かったのですか？どうやら違うようですね。アメリカ合衆国の大統領が、イスラエルを訪問する事は評価しますよ。ただ、6日戦争の50周年記念日には問題だと。神が、彼らにエルサレムを返された奇跡の6日戦争です。彼らの永遠の首都を、です。私たちは、イスラエルの側に偏っているように見られたくない？私たちはイスラエルの側ですよ！私たちは、味方です！味方であるべきです！味方でなければなりません！創世記12章2-3節を見てください。イスラエルを祝福する者は、祝福され、イスラエルを呪う者は、呪われる。トランプの訪問に関して、面白いのが、彼がエルサレムをイスラエルの首都として認識した事で、憶測が飛び交っているのです。恐らく、もっと重要なのは、エルサレムへの大使館移動でしょう。

火曜日の The Times of Israel が報道したのは、

——イスラエル大統領のルーベン・リブリンが、世界諸国に、エルサレムをイスラエルの首都として認識し、大使館をエルサレムに移動するように訴えた。ユネスコが、イスラエルとエルサレムのつながりを否定する決議を通過させた直後だ。

大統領は、駐イスラエルの外国大使たちに伝えた。

「エルサレムがユダヤ人とイスラエル国家の首都であると認識する事を、世界が拒絶するなど、ばかばかしい。要人達はこの70年間、イスラエル国会の公式会議への参加、大統領邸宅、首相事務所訪問に、いつもエルサレムを訪れている。」

とりブリンは言った。外交員を集めて77歳のリブリンは言いました。(ここ、すごいですよ)

「彼らのほとんどが生まれた時、エルサレムは、すでにイスラエルの首都だったのだ。あなた方は、エルサレムがイスラエルの首都であるという、事実の中に生まれたのです。あなた方は、これ以外の現実を知りません！ダビデ王の時代から、これまでも、現在も、そしてこれからも、これ以外に現実はないのです。」——

よく言いましたよ！ところで、エルサレムの意味をご存知ですか？平和のある場所。“ヤル・シャローム”。

“ヤル・サレム” アラブ語では“Salaam-Alailum”と言います。あなたの上に、平和がありますようにと言う意味です。平和の都です。

ところで、木曜日は第二歴代誌33章を学んでいて、そこで2回も出てきましたよ。これに関しては、以前も木曜日の旧約聖書バイブルスタディーと日曜日の預言アップデートでお話ししましたが。神が、神の御名をそこに置くと言われたのです。文字通り、神の御名をエルサレムに置かれると。所有者として、神の御名です。そこで、神の御名「エル・シャダイ」の略語と見られている「シン」、英語の「W」のような形を、エルサレムの上に重ね合わせてみると、神は、その御名をエルサレムに置かれているのです。神ご自身の御名です。

“エルサレムに、わたしの名をどこしえに置く。”(第二歴代誌 33:7)

所有者としての、神の御名です。

もう一つ、預言的に大きな意味を持つ展開です。Fox ニュースが報じました。トランプは「全国祈りの日」に、教会を含む非課税団体による政治活動を、国税庁が制限せず、宗教の自由を強化する書面に、大統領命令に署名しました。記事を少しだけ抜粋してご紹介します。

——「誰一人として、説教内容を検閲されるべきでない。」——
これ良いですね。

——「信仰をもつ人々が、標的にされ、いじめられ、発言を阻まれるなどあってはならない。我々は、宗教的差別に立ち向かう。」トランプは、大統領命令に署名する前にこう言って、
「今後、行政政策は、宗教の自由を保護し、喜んで推進する。」

説教台での、政治的発言の禁止は、1954年に民主党常議員リンドン・ジョンソンによって修正案が定着し、それによって、教会を含む非課税団体が、政治的支援や政治活動に加わる事に対して、罰則を加える権限を、国税庁に与えた。大統領命令は、いわゆる“ジョンソン改正”と呼ばれる、国税庁による、行動の自由の取り締まりを緩和する。——

ちなみに、私は以前から、こんなものに制限されたりしませんでした。皆さん、ご存知の通り。「政治の話に偏り過ぎている！」と何度言われたか分かりません。トランプによれば、宗教の自由を侵したとして、宗教団体によるオバマ政権に対する訴訟は約50件とのこと。これは、8年に及ぶ“反クリスチャン”、“反イスラエル”、バラク・フセイン・オバマの、イスラエルに対するサタンの憎悪の後にやって来た、新鮮で、大歓迎の大統領命令です。あの8年の後に、これなのです。神を褒め称えます。

次に、これに対してある人は「取るに足りない事だ」「何も変わらない。」と言い、またある人は、「世界新秩序を経て、世界統一宗教突入のきっかけとなり得る。」と見ています。これは、また別の機会に別の話題でお話しします。

繰り返しますが、シンプルにお伝えすると、これらの進展によって、私たちが毎週語っている、カギとなる聖書預言が成就しつつあるという事です。具体的には、ゼカリヤ書12章の、神がエルサレムをよろめかす杯とするとされる預言。

“見よ。わたしはエルサレムを、その回りのすべての国々の民をよろめかす杯とする。”(ゼカリヤ12:2)

そしてダニエル9章です。具体的には27節。

“彼（反キリスト）は一週（7年）の間、多くの者と堅い契約を結び、半週（3年半）の間、彼は新しく建てられた神殿に入って、自分を拜むように命じ、ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。”（ダニエル 9:27）

その7年のただ中で、イスラエルはそれが本物のメシアでない事に気づき、黙示録にある通り、後半の3年半に彼らは逃げます。そして、神が彼らを守られるのです。私は、これは現在のヨルダンにある岩の要塞ペトラだと思っています。7年の大患難の後半3年半で、イスラエルの全家が救われます。

ところで、私はこれについてずっと考えていたのですが、せっかくなのでお話しします。シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは、**7倍**の熱さの燃える炉の中で救われました（ダニエル 3章）。彼らのメシア、イエス・キリスト顕現、ベツレヘムで生まれる前のイエス・キリストが、その**7倍**の熱さの燃える炉の中に現れ、彼らは救われました。彼らはイスラエルの描写で、7年/7倍の熱さの燃える炉の中で、救われたのです。その中間地点、3年半の時点で、です。

「なら患難前携挙は、どこですか？」

よく聞いてくれました！ダニエルは、教会の型。シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは、イスラエルの型です。ダニエルは、“炉の前”に高い位へとあげられ、彼はそこには居なかったのです（ダニエル 2:48）。同様に教会は挙げられ、高い位置に上げられ、携挙され、我々はそこには居ないのです。ところで、ついでお話しします。これは、「ヤコブの苦難」と呼ばれていて、「イスラエルの苦難」です。「教会の苦難」ではありません。ダニエルの「70週目」です。ダニエルの「70週目の3年半」でもなければ、ダニエルの「半週」でもない。

患難時代に成就する事が分かっている預言が、現在成就し始めているのを、私たちは目撃しています。だから私は、毎週聖書預言について語るのです。イエスは言われました。

“これらのことが**起こり始めたなら**、からだをまっすぐにし、頭を上げなさい。贖いが近づいたのです。”（ルカ 21:28）

では次に、3番目に入ります。

つまり、なぜ携挙は、**7年の患難前**に起こるべきなのか。

2011年に、私は古代ユダヤの結婚の風習の中に織り込まれた、うっとりするような型をシリーズでお話ししました。これをまた持ち出した理由は、今日が、聖餐式の日曜だからです。そして、主の晩餐の中に、実は患難前携挙の型が織り込まれているのです。まず、なぜイエスが私たちにこう言われたのか。

“わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。”（ヨハネ 14:2-3）

主は、花婿として彼の花嫁の婚約のしるしに言っているのです。そして主が、備えに行かれる場所とは、

結婚の部屋です。なので、聖餐式はこの型の中にあるのです。短く説明します。

ユダヤの結婚では、花婿の父親が花嫁を選び、花婿がそれを承認します。私たちの結婚で、御父が私たち花嫁を選び、イエスが御父の選びを承認されたのと同様です（ヨハネ 10:28、15:16）。

全ての聖書の引用箇所を表にして比較したものを、HPに掲載しています。calvarychapelkaneohe.com

ユダヤの結婚では、結婚の契約が、後に成就される花嫁への約束として、書面に記されています。私たちの結婚では、新しい契約がなされ、主の花嫁である私たちに、神のみことばの中で書き記された、古い契約が成就されました（第二コリント 3:5-6）。ユダヤの結婚ではその後、彼らはパンを裂き、同じパンを食べて、同じ杯から飲んで、婚約の新しい契約に証印を押します。これが聖餐です。同様に私たちも、最後の晩餐でイエスがパンを裂き、杯から飲み、主の新しい契約に、主の血によって証印を押しました（マタイ 26:27-29、ルカ 22:14-20）。そこで、主は使徒たちの花婿として、そして使徒たちは主の花嫁として、この婚約の新しい契約に証印を押したのです。

そして、ユダヤの結婚で花婿は、花嫁に対する愛を示す為、代価を支払います。私たちは、イエスが十字架の上で代価を全額支払いました（第一コリント 6:20、ヨハネ 15:23）。それによって、これ以上大きなものはない、私たちに對する主の愛を示されたのです。

“人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。”

（第一ヨハネ 5:13）

そして、ユダヤの結婚では、花婿は去っていくが、またすぐに迎えに来るとの約束を、花嫁に伝えます。同様に私たちには、イエスが花嫁である私たちに言った言葉が記録されています。

“場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。”（ヨハネ 14:3）

ユダヤの結婚で花婿は、花嫁の為に場所を整えに行きます。父の家に、いわゆる結婚の部屋を増築するのです。イエスが「場所を備える」と言われたのは、この事です。

“わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。”（ヨハネ 14:2）

ユダヤの結婚では、父親だけが、花婿が花嫁の為に戻る日、時を知っています。「その日、その時は、御父がいいに誰も知らない。」とイエスが言われた通りです（マルコ 13:32-33）。

ユダヤの結婚では、花婿は花嫁に「愛の贈り物」をします。私たちには、我々の花婿がその花嫁に、愛の賜物“永遠のいのち”と“平安”を与えました（ヨハネ 10:22-28、14:13-14、27）。それも、世が与える平安ではありません。パウロがピリピ人への手紙 4 章で言った「人の理解を超える平安」です。

また、ユダヤの結婚では、父親もまた花嫁に贈り物をします。花嫁が相続者として、新しい生活に備えるためにです。私たちに、聖霊の賜物が送られたのと同様です（ヨハネ 14:16-17、第二コリント 1:21-22、ガラ

テヤ 5:22)。御父から霊的な賜物、新しいいのちをいただきました。キリストにあつて、キリストと共に過ごす新しいいのちです。

ユダヤの結婚では、清めの風呂『MIKVACH』に入ります。これはヘブル語で洗礼を意味します。同様に、私たちは聖霊の洗礼を受けます（使徒の働き 1:4）。それによって私たちも、洗い清められるのです。パウロがこう言っています。

“しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。”（エペソ 5:27）

ユダヤの結婚では、花婿が夜の盗人のように来るために、花嫁の独身の友人が、光をともして花嫁を世話します。その時は、誰も知りません。同様に、我々花嫁も、自分たちの光をともし、自分たちのともしびの油を備えます。そうしていつ来るか分からない、私たちの花婿に備えるのです（マタイ 25:1-13）。

ユダヤの結婚では、花婿が来る時、花婿の友人は先に行つて、「彼が来るぞ！」と叫び、ショファールというラツパを鳴らします。同様に、私たちの花婿が来られる時には、神のラツパが鳴るのです（黙示録 4:1、第一テサロニケ 4:16-17、第一コリント 15:51-52）。ちなみに、御使いのラツパではありません。この詳細を、しっかり把握しておいてください。多くの人が、御使いのラツパと、神のラツパとを混乱していますから。神のラツパの響きは、私たちの為に鳴らされ、イエスが来られるのです。

ユダヤの結婚では、花婿が花嫁をつかみ、連れ去るのです。同様に、私たちの花婿イエスも、彼の花嫁を連れ去るがごとく、私たちを携挙します（ルカ 17:34-36）。

ユダヤの結婚で、花婿は花嫁を部屋に連れて行き、そこで彼らは結婚を完成させ、7日間祝います。7です。我々は、イエスが私たちを部屋に連れて行き、そこで結婚を完成させ、7年間祝うのです。世が患難に遭っている間、我々は花嫁として、7年間祝うのです（ヨエル 2:15-16、ダニエル 9:27）。

ユダヤの結婚では、招待客は待機し、花嫁は部屋に入り、7日の後に花婿が結婚を完成させた事を告げると、招待客は歓喜します。私たちも同様に、我々が7年間祝っている間、世は、この7年の患難に遭っているのです。

そして、ユダヤの結婚では、“7”日の後、盛大な宴会が開かれます。私たちにとっては、小羊の婚宴、7年の後です（黙示録 19:9）。

ユダヤの結婚では、婚宴に出席するのは3種類の人々です。花婿、花嫁、それから招待客です。とても重要な事です。私たちの小羊の婚宴でも、3つのグループに分かれます。花婿はイエス、花嫁は教会、招待客とは、携挙の後、患難時代の最中もしくは終わりに救われた患難時代の聖徒です（第二コリント 11:2、エペソ 5:23-27、黙示録 7:13-14、21:9-10）。彼らは花嫁ではありません。黙示録の中で、花嫁は御座について

いますが、聖徒たちは御座で仕えています。その説明が書かれています。彼らは、取り残された者たちで、7年の患難の中で救われる人達です。彼らは救われていますが、花嫁ではありません。私たちは花嫁です。花嫁は、事前に取り去られます。

最後に、ユダヤの結婚では、花嫁の新居は、エルサレム。神がその御名を置かれた場所です。私たちに
とっては、新しいエルサレムです。花婿は花嫁の為に来て、彼女と共に住み、そこが私たちの場所となります（黙示録 21:1-4、エゼキエル 43:1-2,7、イザヤ 2:2-4、ミカ 4:1-5）。待ちきれません。

祈りましょう。

天のお父様。あなたに感謝します。あなたの御言葉、特に確かな預言に感謝します。主よ。人の解釈でなく、確かな預言があなたの御言葉の中にある事に感謝します。それによって、私たちは確実にあなたがすぐにでも、迎えに来られることを確信します。主よ。私たちは祈ります。マラナタ！主よ。早く来てください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

聖餐式

ルカの福音書 22 章では、私たちが“最後の晩餐”と呼ぶ聖餐式を行うように、私たちに告げられています。ルカが聖霊によって記しています。

“さて時間になって、イエスは食卓に着かれ、使徒たちもイエスと一緒に席についた。イエスは言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたと一緒に、この過ぎ越しの食事をするをどんなに望んでいたことか。あなたがたに言いますが、過ぎ越しが神の国において成就するまでは、わたしはもはや二度と過ぎ越しの食事をすることはありません。」そしてイエスは、杯を取り、感謝をささげて後、言われた。「これを取って、互いに分けて飲みなさい。あなたがたに言いますが、今から、神の国が来る時までは、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」それから、パンを取り、感謝をささげてから、裂いて、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを覚えてこれを行いなさい。」”（ルカ 22:14-19）

今日、聖餐にあずかる時には、花婿との婚約の場にいる花嫁のレンズを通して、私たちの代わりに裂かれた、主の体を象徴するパンをいただいて欲しいと思います。これを受ける事によって、私たちも「はい。」と言っているのです。私たちは、何に対して「はい。」と言っているのでしょうか？私たちは、結婚のプロポーズに対して、「はい。」と言っているのです。救世主が、私たちに「結婚してください。」と言い、それに対して、私たちの答えは、「はい。」「結婚します。」です。彼は、片膝だけをひざまずいたりしませんでした。彼は、十字架にかかったのです。そして、私たちの為に全額の代価を支払った。これは実に、小羊の結婚のプロポーズの記念祝いです。

以前にもお話ししましたが、今日もまたお話します。

30年前、私はヘリコプターの中で妻にプロポーズしたのです。私の友達が、地元の病院のヘリコプター

パイロットだったので、綿密に計画を練って、指輪も用意しました。そうして私たちは、ヘリコプターで夜の街の上空へ飛びました。とてもうささいヘッドホンを付けていたのですが、妻にプロポーズをしたのです。「結婚してください。」と、ヘッドホン越しに。すごく良かったのは、反対側のマイクから聞こえてきたのが、「はい。」という返事。彼女は泣いていました。後で分かったのは、彼女は高所恐怖症だったのです。それが、このプレキシガラスの扉を隔てて死と隣り合わせで、「何でも望み通りの事を言うから、早くこのヘリコプターから出して！！」と。

イエスが、私たちにプロポーズされているのです。そして、これを共に預かる事で、私たちは「はい。」と言って、主のプロポーズを受けるのです。「あなたと結婚します。」と。

主よ。私たちはお受けします。そして、あなたが来られ、あなたの備えられている場所に私たちを連れて行ってくださるのを待ち望んでいます。その部屋で、過ぎ越しの小羊、あなたとの結婚を完成させ、祝う日を。主よ、感謝します。

ルカは続けて書いています。

“食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたの為に流されるわたしの血による新しい契約です。」” (ルカ 22:20)

私たちが象徴として手にしている杯の重要性を、十分に伝える事は出来ないと思います。これは、イエス・キリストが私たちの代わりに流された血を象徴しているのです。聖書にはこうあります。

“血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。” (ヘブル 9:22)

だから、これを理解するのは、とても重要なのです。新しい契約の血として、私たちの為に主の血が流されたのです。新しい契約、結婚の契約の証印です。これを受けて、杯から飲むことで、「結婚します。」と言うのです。

主よ、あなたの花嫁として、私たちもあなたの御国が成就され、あなたと共に食卓にあずかる日を、あなた同様に待ち望みます。あなたと共に預かる日は、どれほど栄光輝く日であるか、言葉では表せない程です。主よ、どうか早く来てください。マラナタ！イエスの御名によってお祈りします。アーメン。

このメッセージはカルバリーチャペル カネオへの JD ファラグ牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、Calvary Chapel Kaneohe (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」
ヘブル4:7

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペルカネオヘ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>
Calvary Chapel Kaneohe

47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by まい